

2020

令和2年9月 第44号

ひまわり

特集 保護司

更生保護にたずさわるボランティア

Q1.どんな人?

Q2.どんな仕事?

Q3.社明運動って?

Q4.どんな人をサポートするの?

「ひまわり」は、非行や罪を犯した人たちの
立ち直りを助けたり、学校と連携して
犯罪防止活動をする

杉並区保護司会

NPO法人杉並区保護観察協会

問合せ: 杉並区成田東5-41-7 TEL/FAX 03-5930-9098

両ボランティア団体が、杉並区内の
中学校にお届けする広報紙です

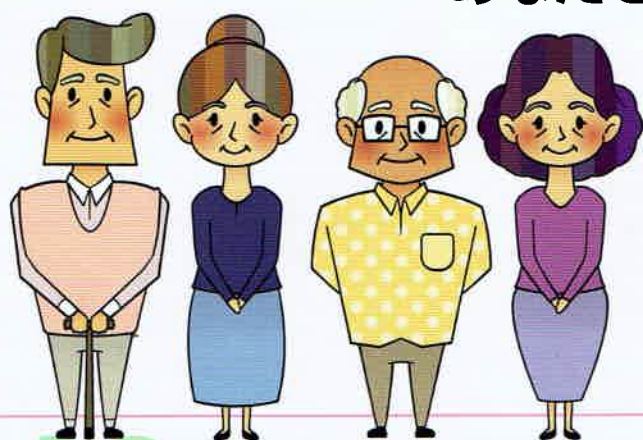
A1 保護司とは



「社会奉仕の精神をもって、犯罪をした者の改善及び更生を助けるとともに、犯罪の予防のため世論の啓発に努め、もって地域社会の浄化をはかり、個人及び公共の福祉に寄与することを、その使命とする」この使命を果たすため、保護司は、具体的にはA2のような諸活動に従事しています。
(保護司法より)

杉並区の保護司は、皆さんのお父さん、お母さんからおじいちゃん、おばあちゃんくらいまでの地元の助っ人です。小・中学校の事情などに詳しい民間のボランティアで、過ちを犯した人やその家族に対して支援する熱意があり、健康で安定した生活ができる人達です。現在さまざまな仕事や豊富な経験を持った人たちが活躍中です。

もしも非行に走ってしまっても必ずや
「あなたを信じ支えてくれる」
そんな存在です。



ひまわりは保護司の花

A2 保護司の仕事

生活環境の調整 (仮釈放・少年院仮退院 まえの段階)



- ・本人が施設から出てきた時の住まいや生活の手助けをしてくれる人の確認とお願いなど、環境や状況を調べ東京保護観察所に報告する。

保護観察 (仮保釈・仮少年院退院などの人を一定期間見守り相談にのる)



- ・更生を目的として定期的に面接をする。
- ・日常の生活をするための約束ごと(遵守事項)を守るように話し合う。
- ・生活面の相談・助言や就学・就職活動などの手助けをする。

犯罪予防活動 (犯罪のない社会を目指す)



- ・講演やシンポジウム開催。
- ・社会を明るくする運動に協力。
- ・地域の防犯に協力。

黄色い羽根は社会を明るくする運動のシンボル



すみずみ



更生ペンギンのホコちゃん

A3 社会を明るくする運動

毎年7月は、運動の強調月間です
今年第70回、記念の年です。



この運動は東京・銀座の有志(商店街の店主)が戦後の荒廃した社会の中で非行少年の増加が目にするに「なんとかしなきゃ」という強い思いで始まりました。

そして現在、全国各地において、「自分に何ができるか」を考えるきっかけとなりそれぞれの行動を展開しています。

杉並区では、区内にある17駅で「駅頭広報活動」と「ひまわりフェスタ」という推進イベントを開催しています。



ひまわりフェスタ

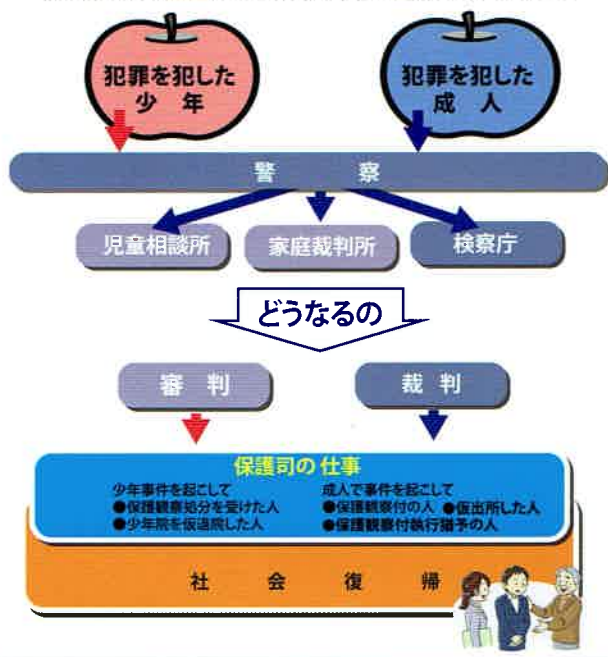
駅頭広報活動



この活動は、保護司を始めとする地域の皆さん(小・中学校の児童・生徒も含む)が中心となり、国や地方公共団体と共に手を携え、更生保護のネットワークを広げました。保護観察協会、更生保護女性会、BBS会、協力雇用主、更生保護施設もその仲間です。さらには吉本興業を始めとする芸人、歌手や俳優のみなさんも、この運動を理解され、広報啓発活動や社会貢献活動に積極的に協力されています。

A4 私たちがサポートする人

保護司が担当する対象者ってどんな人なの？



上図の 保護司 の人達を対象として月に2回程度保護司と面接をします。

ホゴ・サラちゃん更生物語



SDGs

Sustainable Development Goals 「持続可能な開発目標」

今回は、「目標②、飢餓をゼロに」「目標③、すべての人に健康と福祉を」についてです。



2 飢餓をゼロに
飢餓に終止符を打ち、食料の安定供給と栄養改善の目標を達成することから、持続可能な農業を推進する

② 飢餓をゼロに

地球上では、8億人以上の人々が飢えに苦しんでいます。COVID-19によりもっと増えたと思います。アフリカやアジアの発展途上国には、満身に食事がとれずに栄養が偏った状態が続き、命を落とす子供や健康に生きられない大人が大勢います。飢餓をなくすには、アフリカやアジアで営まれている小さな農家の生産性を上げなければなりません。ただ、たくさん作れるようにすれば良いだけではなく、生態系を守りつつ土地がやせないように注意をして持続可能な農業を進める知恵が必要です。

私たちにとっては、食べ物が無いことは実感できないと思います。かえって食べ過ぎて太ることの方が問題だと思っている人の方が多いかもしれません。皮肉なことに、世界には「食べられない人」と「食べ過ぎている人」がいます。どちらも不健康な状態にあるのが現実です。

この2つの問題を解決するための取り組みが始まりました。そのひとつの方法がTABLE FOR TWO(テーブル・フォー・ツー)という活動です。TFTに参加している飲食店や企業の社員食堂などで食事をすると、その代金から20円が発展途上国へ寄付されます。その金額はアフリカの学校給食1食分になります。自分が1食とるだけで、自動的に発展途上国の子どもに1食分を提供できるのです。しかも、対象となるメニューはカロリー控えめヘルシーなので、同時に健康になれます。2019年2月まで、支援食数は7,000万食を突破しました。この他にも日常生活の中に飢餓や肥満撲滅への世界的な問題解決に結びつけられるものがあるかもしれません。



3 すべての人に健康と福祉を
あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する

③ すべての人に健康と福祉を

世界には、産まれて5歳の誕生日を迎えることができずに命を落とす子どもが、10人に1人います。特に発展途上国では、医療や健康に関する知識が十分でなく、本来なら予防や治療ができるはずの病気で多くの子どもの命が失われています。

そして、妊娠・出産の女性や幼い子の死亡率は高く、また年齢性別を問わずにエイズや結核などの感染症も多いです。一方、先進国ではたばこやお酒、薬物乱用、交通事故、環境汚染によって健康に暮らせない人がたくさんいます。



誰でもが適切な医療を受けられる環境をつくり、健康に生きるための、さまざまな取り組みが求められています。

ところで、皆さんは自分の「母子健康手帳」を見たことがありますか？あの小さな薄い手帳には、大きな力が秘められています。

妊娠中の母体の中での胎児の様子、出産時の母子の状況、母親が自分の子どもの成長や予防接種などの健康に関する記録を継続的に書きとめ家庭に保管しています。子どもが、初めて受診する時、医師が手帳を見ればそれまでの状況を大まかに把握することができ、適切な治療をしてもらえます。実は、この素晴らしいシステムは世界に先駆けて日本で始まったものです。最近では、この「母子健康手帳」を参考にした試みが、世界の数十か国で始まっています。病院や医師を増やす以外にも小さな命を救うひとつの方法です。

アメリカのZipline(ジップライン)というベンチャー企業は、ドローンを使って、医薬品や血液を届ける医療支援を始めました。このアイデア



に、世界中からたくさんの投資が集まり、今まで救えなかった命を助けることができるようになりました。

写真/内藤順司

「アフリカ・スーダンにて医療支援活動を行う認定NPOロシナンテスより写真提供」



保護司は法務大臣が委嘱するボランティアです
犯罪や非行を犯した人たちの立ち直りを支えます
保護観察処分となった人が、再び地域の中で仕事をしたり
学校へ通ったりして、社会の一員として生きてゆく手助けを
します
このような人たちと定期的に面接し、話し合うことで
生活状況を確認し、必要な助言をすることが基本的な
役割です
また、杉並区に住む保護司で組織される「杉並区保護司会」
の一員として犯罪予防活動を行うことにより、安心で
住みやすい地域づくりに貢献しています

保護司になるには特別な資格は必要ありませんが
一定の要件はあります。例えば委嘱時点の年齢が
66歳以下であることなどです
人が好きで、お世話が好きで、ハッピーになってもらう
ことを何より願っている方をこ存じありませんか
もちろんあなた自身でも大歓迎です
心当たりがあれば気軽にお問い合わせください
更に詳しい内容をお知らせします
平日の昼間、下記の連絡先に保護司が駐在しています

杉並区更生保護サポートセンター

〒166-0015 杉並区成田東 5-41-7

杉並区職員会館 202

03-5930-9098

杉並区保護司会のホームページもご覧ください

<https://suginamikuhogoshikai.jimdofree.com>



みなさまの周りの 保護司にふさわしい方を

ご紹介ください

杉並区保護司会